

## 野坂加苗 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦  
副主査 原 田 省  
同 梅 北 善 久

### 主論文

Cytoplasmic maspin expression correlates with poor prognosis of patients with adenocarcinoma of the uterine cervix

(細胞質maspinの発現は、子宮頸部腺癌の患者の予後不良と相関する)

(著者：野坂加苗、堀江靖、塩見達志、板持広明、大石徹郎、島田宗昭、佐藤慎也、  
坂部友彦、原田省、梅北善久)

平成27年 Yonago Acta medica 58巻 151頁～156頁

### 参考論文

1. Tumor-to-tumor metastases in Cowden's disease: an autopsy case report and review of the literature

(Cowden病にみられた腫瘍内腫瘍転移：一部検例の報告と文献的考察)

(著者：松本かれん、野坂加苗、塩見達志、松岡佑樹、梅北善久)

平成27年 Diagnostic Pathology DOI:10.1186/s13000-015-0408-8

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は当院で確定診断がなされた46名の子宮頸部腺癌症例について、免疫組織化学的に腺癌の細胞質におけるmaspinの発現と予後との相関を検討したものである。その結果、細胞質におけるmaspinの発現は、無病生存期間および全生存期間を有意に短縮させる因子であることが示唆された。本論文の内容は、外科病理診断学ならびに生殖機能医学の分野で、予後予測因子としてのmaspinの有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。